

◆ 明けましておめでとうございます

皆さん、明けましておめでとうございます。

古賀市緑のまちづくりの会は、結成19年目を迎えています。会では森づくりと園芸福祉の両部門でたゆみなく活動を続け、森は確実に成長し未来の森を予感させます。市内各方面の“はなちどり”をベースとした花壇づくり、園芸福祉活動では、市民の皆さんの共感を頂き、明るく見守られています。

会は、皆さんの長年の経験を経て、結束力を高めた組織となっています。

今年も、皆さんが怪我なく、楽しく、健康で活動され、良い年であることを祈念しています。

古賀市緑のまちづくりの会 代表 宿理 英彦



◆ 県社協助成金決まる！

古賀緑のまちづくりの会では、春日市の「クローバープラザ」で12月15日に開催された福岡県社会福祉協議会による認定式に、青崎幹事が出席して「助成金交付決定通知書」を頂きました。

今回の地域ボランティア活動助成金は、平成30年度から3カ年間で30万円が決定されました。会における活動費が縮小傾向にある中で、今回の助成金は、園芸福祉活動にとって、今後の大きな力を得たこととなります。

当助成金の決定には、古賀市長をはじめ、介護支援課予防係、古賀市社会福祉協議会の方々のご支援とご協力を頂き、嬉しい結果を得られました。たくさんの皆さんの応援に感謝いたします。

◆ 図書館前花壇・多彩な花々

秋晴れの11月28日は、12名の会員が図書館前の花壇に集まり、様々な草花を一緒に植え込みました。

花壇には、冬から春にかけて咲く花を選びすぐって集めました。シクラメン、葉ボタン、ナデシコ、冬シラス、色合い豊かなバコパの白・ピンク・紫、アリッサム、パンジー、よく咲くスミシ、ゼラニウム、ストックと多彩な花々が勢ぞろいしました。

これから花は、花壇に根付き、豊かな色彩を市民の皆さんに楽しんでいただけることを願っています。



◆ “どんぐりの森”等・スッキリ



冷え込みの厳しい12月6日は、3名の会員が集まり、青柳小学校の子ども達が苗木を育てて植えた“どんぐりの森”のつる切、枝切に努めました。“どんぐりの森”は、古賀グリーンパークの頂部通路沿いにあり、公園を散歩する方々の利用度は高く、親子連れの散策も見受けられます。一方で、林の密度が高く、薄暗くなる傾向があるので、可能な限り森の風景をスッキリと保つために手入れを続けています。

12月15日は、7名の会員が医王寺山に集まりました。つる切、枝切、枯木整理でしたが、林の外より冷え込みが少なく、冬なのに、ほのかな暖かさの中で、樹木のぬくもりを感じながらの作業でした。

◆ エコ皿等大量創作！

福岡が寒気に襲われた12月5日は、“はなちどり”に会員13名が集まりました。

この日は、新年を前にして、苔玉を作る千鳥苑他数か所の地域の要望に添うため、苔玉の下に敷く定番のエコ皿づくりに取り組みました。目標は100個でしたが、会員の熱意とチームワークで見事、目標を越える122個を作製しました。

また、松飾りのために竹を伐り出し、竹器60個を目安に日々取り組み、松竹梅などを基本に活かして完成させました。



◆ JR古賀駅前に「ニュー花」披露！



冷え込み続く12月19日の園芸福祉定例日は、13名の会員が“はなちどり”に集合しました。

その後、2班に分かれ、1班は、乗降客の皆さんの注目の的となっているJR古賀駅前花壇に、ハボタン、パンジー、良く咲くスミシ、ナデシコ、アリッサムを新たに植え込みました。これから花壇の花々は、きっと道行く市民の皆さんの心を和ませることでしょう。

2班は、特別養護老人ホーム“みどり苑”の花壇に施設の方と力を合わせてハボタン、パンジーなどを植え付けました。

◆ 千鳥苑花壇復活！

12月12日は、千鳥苑の花壇にパンジーの花苗を、13名の会員の手で植え込みました。

この日は、“はなちどり”の県道側の花壇整理が早々に終わったことから、その勢いで、千鳥苑と相談した結果、千鳥苑玄関先の花壇を耕し、堆肥と肥料を撒いて、パンジーを花の色を変えながら、等間隔で植え込んだものです。

この花壇は、千鳥苑の玄関口にあたり、来客の皆さんの目につく場所なので、今後、来園者の癒しになることでしょう。



◆ 久保西で正月飾り作る



12月22日は、久保西地域の36名の皆さんと、久保西公民館で正月飾りを作りました。

作り方の説明を青崎会員が、簡潔に説明していました。この地域の方々は、6年間の松飾り作りの実績があり、説明前から、材料を受け取った人は個人で松飾り作り始める腕前でした。それでも要所要所では、サポート役の9名の会員のアドバイスを受けながら、松飾りを完成していました。

皆さんは、自ら作った松飾りにご満悦の様子で家路につきました。

◆ 新年会は23日

新年会は、1月23日(火)に千鳥苑で日中開催します。皆さんの参加をお待ちします。(要予約)

四方山話

光陰 矢の如し

皆さま、明けましておめでとうございます。平成30年の幕開けです。

「平成」に代替わりしたのは、つい数年前のことのように思いますが、既に30年も経ち、来年には、また年号が変わります。私たちは、昭和・平成と新たな年号の3つの時代を生きることに。

思えば、中学2年のホームルームの前方上の壁に「少年 老い易く 学成り難し」「光陰 矢の如し」と大書された額が二つ掲げられていたのですが、未来の洋々たる人生を予感していた若い私たちの何人が、担任の期待に応えてその墨書を味わっていたのでしょうか。人生の真理を知らしめる名言も、各人それぞれの時が満ちなければ胸に落ちることはありません。

勿論、70代も半ばになった今の私には、その言葉は痛いほど身に沁みます。とはいえ、時の流れの速さに人生のはかなさを嘆くより、老い先短いこれからの時間に何か持ち受けているのか楽しみでもあるのです。

今の「未来」が「現在」となっていくその一瞬一瞬を味わい尽くして行きたい・生きたい。加齢による心身の衰えさえも、人生を知り尽くす過程だと思えば、老いの進行があまり怖くなく受け入れられ、本当の長寿(長命を寿ぐ)を獲得した心境のつもりですが、まだ健康だから言えることかも…。

納 富 育 代